田中小だより

平成３０年度
７月号

昭島市立田中小学校　〒196-0014　昭島市田中町三丁目４番地１号　電話：042-543-1511　　校長　土屋　正登

読書嫌いが本の虫に

校長　土　屋　正　登

道男は、友達と同様に漢字の練習や計算などに一生懸命取り組んでいました。ただ一つ違っていたのは、本を読むのが嫌いでした。やっと借りてきた本も、パラパラとめくり返してしまいます。

お母さんは、読書週間中に催された講演会に行きました。そこで、本を読む子は、性格も良く、心が安定している。それに、頭も良くなるという話を聞いてきました。また、「子供を本好きにしたかったら、子供が、寝る時、本を読んであげなさい。根気よく続けてごらんなさい。絶対に本が好きになりますよ。」と教えられました。教えてくださった講師の先生は、とても有名な方でしたから、お母さんは、それを信じました。

それから、お母さんの道男への読み聞かせが始まったのです。どんなに疲れていて眠い日も必ず本を読んでやりました。難しい言葉は、やさしく説明してやりました。嬉しいところ、悲しいところを精一杯気持ちを込めて読みました。

こうして、１年経ち、２年経ちました。道男は、本を読もうとしませんでした。お母さんは、講師の先生の話を疑いました。でも、思い直して、読み聞かせを続けました。５年経ちました。そして、もう６年が終わろうとする日になっても、道男は依然として本を読みませんでした。

「あの先生のおっしゃったのは、嘘だったのかしら。もう６年間も続けてきたけれど、おしまいにしましょう。」

道男は小学校を卒業して中学生になりました。本棚には読み聞かせのために買ってきた本がたくさんありました。お母さんは、それをぼんやり見ていました。

中学生になって間もない日、玄関のドアが開くと、道男が本を抱えて立っているのです。にこにこしながら、お母さんにちらっと本を見せて、そのまま、自分の部屋にはいると、本を食い入るように読み始めたのです。お母さんは夢をみているようでした。道男は本の虫になったのです。来る日も来る日も本を読み続けました。「お母さん、ありがとう」何年か経って、道男はお母さんに感謝しました。道男は後にとてもりっぱな学者になりました。この話は本当にあったことです。

その後も、根気よく読み聞かせをして、子供を本好きにした事例をたくさん聞きました。読書不振の子は、読書に夢中になった経験がなく、楽しさがわからない。身近な所に読むべき本がない。読書の雰囲気がない。読書する機会経験に欠けているそうです。このようなお母さんの例は、読み聞かせの長さにおいては特殊ですが、読み聞かせの大切さが、よくわかる事例かと思います。

めあてを明確にもった夏休みになりますように。